



雨の日は雨の日なりに…

副校長 土屋 俊朗

五月雨を あつめて早し 最上川

松尾 芭蕉

五月雨（さみだれ）とは、なんともきれいな言葉です。「五月（さつき）に垂れる雨の雫（しずく）」といったところでしょう。昔の人の洗練された言語感覚には感心させられます。「五月雨」といっても旧暦の五月ですから、今の暦でいえば6月、つまり五月雨とは梅雨の雨です。

私は雨の日が苦手です。じめじめする上に服が濡れて不快ですし、空は雲に覆われていて、なんだか気分も晴れません。

でも、ちょっぴりよいこともあるものです。雨音を聞きながら眠る心地よさ。休みの日ですと外に出るのが億劫なので、ゆったりと音楽を聴いたり、本を読んだり…。



本校では「荇田おはなしの会」の皆さんが、毎週水曜日に読み聞かせの会を開いてくださっています。4月末に行われた「読み聞かせ はじめましての会」では、「どろぼうがっこう」というユーモラスな作品を、ペープサート劇で全校児童に披露してくださいました。声の表情が豊かで大人が聞いていても面白く、子どもたちは大喜びでした。以後毎回、質の高い読み聞かせをしてくださっています。お話を聞いている子どもたちの真剣な表情や、楽しそうな笑顔がとても印象的。主人公と一緒に泣いた

り笑ったりしながら、物語の世界の中で自分自身が生き生きと動き回っています。小さいお子さんがいらっしゃるご家庭では、本を読み聞かせてあげるのも雨の日ならではの楽しみ方でしょう。

家庭と地域と学校が力を合わせて、晴れた日は晴れた日なりに、雨の日は雨の日なりに、自分らしく楽しみを見いだしていけるような子に育ててまいりましょう。五月雨は私たちに、そんな機会も与えてくれます。

